



bjリーグ・ボランティア活動特集

【 bjリーグの誕生 】

日本国内ではバスケットボールのプロ化に向けての話し合いが、長い間行われてきていました。しかし、その実現に向けての動きは遅々として進まず一方では、サッカーのプロリーグであるJリーグの地方への広がりや地域密着による成功がありました。そうした社会環境の変化を受けて2002年頃からいよいよ本格的なプロリーグ創設の検討や勉強会が開催されたのです。しかし、JBL(日本バスケットボールリーグ)での意見の一致が困難として「新潟」「埼玉」などがリーグを脱退、2004年8月に新リーグ設立の表明がおこなわれました。

その後2004年11月、新たに「仙台・東京・大阪・大分」が加わり「bjリーグ」の立ち上げや、活動理念を表す「bjリーグ宣言」を発表、2005年11月に6チームにより公式戦がスタートしています。

bjリーグ宣言

プロフェッショナル
スポーツ・エンタテインメント
グローバル&コミュニティ

とりわけ国際性と地域性の合体をめざすとして
ホームタウン制・地域密着経営に取り組み、チーム名は地域名とニックネームで構成しています

創設の苦労はあったものの、やがて2006年には「富山・高松」、2007年「沖縄・福岡」、2008年「滋賀・浜松」とチーム数が増加、現在は東西ふたつのカンファレンスで12のチームがリーグ戦を行うまでになっています。

経営の規模こそ違うものの、bjリーグは先行したサッカーのJリーグから取り入れているものが多くあります。そのひとつが、ホームタウン制の採用であり、それに伴うチーム名への地域名の採用でしょう。更に、地域密着活動の一環として、様々な地域貢献活動にも取り組み、スクールや学校訪問なども始まっています。また、大半のチームが「ボランティア制度」を導入、会場の設営から当日のゲーム運営、撤収など多様な活動が行われているのです。そして、今年、新聞紙上に「日本リーグ」との話し合いが再開するとの報道が掲載されました。今後、どのような変化が生まれるのか、そして各地でリーグ入りを目指すチームがどうなるのか注目されます。

プロバスケットボール bjリーグボランティア < 各チームの公式ホームページより >

【仙台89ERS】 ボランティアページ <http://www.89ers.jp/community/index.html>

【新潟アルビレックス】 運営スタッフページ <http://www.albirex.com/volunteer/index.html>

【富山グラウジーズ】 ボランティアページ http://bj-gr.jp/news/2008/09/post_528.html

【埼玉ブロンコス】 ボランティアチームページ・GREEN SPIRITS <http://www.saitamabroncos.com/08-09volunteer.htm>

【東京アパッチ】 ボランティアページ <https://gt106.secure.ne.jp/gt106166/07-08volunteer/>

【浜松・東三河フェニックス】 ボランティアページ <http://bj-phoenix.com/volunteer.html>

【滋賀レイクスターズ】 ボランティアページ <http://bjshiga.shiga-saku.net/e115203.html>

【大阪エベッサ】 ホームページ上にはページをみつけられませんでした。

【高松ファイブアローズ】 ホームページ上にはページをみつけられませんでした。

【ライジング福岡】 ボランティアページ・ライジング福岡サンダーバード <http://rizing-fukuoka.com/intem.html>

【大分ヒートデビルズ】 ボランティアページ・デビルズブループロジェクト <http://www.heatdevils.com/booster/dbp.html>

【琉球ゴールデンキングス】 ボランティアページ <http://www.okinawa-basketball.jp/kings/volunteer/index.html>

08-09シーズンより新規参入しているチームです。

(注意) 内容は09年4月15日段階のもので、各チームの都合により変更される場合がありますのでご了承ください。

bjリーグとボランティア

新潟アルビレックスボランティア 岩橋 和彦

今日は4月上旬、小春日和のとていい天気である。

今年も少雪暖冬だった。振り返ってみると「3か月予想は当たっていたなあ」なんて思っている。

さてbjリーグはもう終盤戦にかかっているプレイオフ進出に我アルビも必死になって戦っている最中である。

今年で4年目にはいったbjは各地で徐々に知名度を上げているはず。特に沖縄は勝率が7割を超えていておそらく地元では「今年は優勝だ」なんて思っている人も多いことだろう。それにしても7割というのは凄い。私が尊敬する将棋の羽生善治の勝率に匹敵する。

リーグ中盤のころ 中野社長と話す機会があって その時「沖縄は終盤失速しますよ」

なんて笑いながら言っていたが こちらの予想は当たらなかった。

日本バスケの最高峰はJBLとっていたけれど、まあせっかくだし 一度は見に行こうと思い、bjの開幕戦に妻を誘って朱鷺メッセまで見に行った。その時がbjとの出会いである。

ちょっと早めについたので 椅子のところでぼんやりしていると 目の前にテレビクルーがうるちょろ・・・。「へ～ テレビ局も来ているんだあ」なんて思っていた矢先、突然マイクを持った人がこちらにマイクを差し向けてきた。「ぎょえ～なんで俺に」

今となっては 何を質問されたか どう答えたか覚えてはいない、ついでに妻もインタビューされていた。妻はバスケのこと何も知らないのに。会場に来るまで「バスケのプロリーグなんて成功するはずがない」なんて思っていたのに その思いとは裏腹に「bjに対して将来性を期待しています」なんて答えたのかな？

私は今年で47歳になる。小・中・高（大学ではなぜかバスケをしなかった）そして社会人ずっとバスケットをしてきた。バスケを好きな人間がプレイできなくなっても 何かしらバスケにかかわっていきたく思うのはごく自然な思いなのだろうと思う。

同級生や先輩・後輩をみても、クラブチームへの協力・出身校の応援や指導などのボランティアをしている。

丁度一線を引こうと思った時にbjが始まり、そして2年目ボランティアを募集していたのでこの機会にやってみよう と思って参加してみた。

ボランティアというと自治会や町内会に割り当てられたどちらかというと受動的なボランティアである。

確かにわが町内会だつて ごみステーションの掃除当番が順番で回ってきたり、側溝の掃除、害虫駆除などのボランティアがある。

それに対しスポーツイベントにおいてボランティアが初めて活躍したのは1985年の「ユニバーシアード神戸大会」と聞いている。このときから 能動的に行動するボランティア活動が一般的になってきたのだと思う。

今やあらゆるスポーツイベントにおいて多くのボランティアが活躍しているし、スポーツボランティアなくしてプロスポーツは成り立たないとさえいわれている。

新潟での現状はサッカーと兼ねてボランティアをしている人が多く、バスケだけという人はほんの2、3人だけ。それだけバスケのボランティアはまだ認知度が低いのだろう。

しかしながら朱鷺メッセでの試合のときはアップルスポーツカレッジの生徒の皆さんが毎回手伝いに来てくださっているし、地域体育館で開催される時は 後援会の方々やスクール生の父兄の方々を中心になって手伝ってくださっている。

もしかするとそれは町内会のボランティアと変わらない受動的・半強制的なボランティアかもしれないが、大変助かっている。

どこのボランティアだって悩みは同じで 登録人数が少なかったり、自主性がなかったりと 不平不満を挙げればきりが無い。それこそボランティア活動が盛んな宮城県のように市民スポーツボランティアという自主性のある組織が望ましい。bjのボランティアはまだこれからである。

他のチームでボランティア活動をしている人たちとの情報交換も必要なだろう。課題は分かっている。

だから一つ一つ 解決していくしかない。

来季に向けては ラジオやテレビを利用して募集をかけたり、試合のある時に募集パネルを出してみたり あとはボランティア活動のブログを立ち上げたりしてみようと思っている。

浜松・東三河フェニックスのボランティアスタッフ活動を通じて

浜松・東三河フェニックスボランティアスタッフ 大林 晶子

つい先日開幕したと思ったら、浜松開催も残すところ2試合となりました。私は、元々JBLのフェニックスのファンだったので、bjで新たなスタートを切ったフェニックスのお手伝いをする事ができ、大変嬉しく思っています。

初めてボランティアの皆さんとお会いしたのは9月の説明会でした。バスケット関係者ばかりが集まると予想していたら、自主的に登録した人では、バスケットに精通されている方は寧ろあまりいらっしゃいませんでした。皆さんが「バスケット」という枠に捉われず、浜松初のスポーツチームを歓迎していることを知り、地域密着のbjリーグを支えてゆくのはこういった方々なのでと思い、新鮮でした。自主登録は、大学生から70歳代まで、まさに老若男女様々な方がいらっしゃいます。最初は顔も名前も一致せず、会話もなかった私たちですが、今では、少しずつ意思疎通もはかられてきており、そんな時にシーズンが終わってしまうのはさびしい限りです。

最近まで、私は、ボランティアの役割を「試合の運営」と考えていました。勿論、それが大きな柱であることは間違いありませんが、それだけではないのだと気づいた出来事がありました。

フェニックスの大ファンだという女子高生が、学校の先生を通してボランティアに参加したいと申し出てくれました。当日は開幕から参加して下さっているボランティアさんと組み、1階指定席のお客様のご案内を担当してもらったのですが、ベンチ傍らの仕事であった為、選手のファンだという彼女がきちんと仕事できるか心配でした。ところが、私の不安を余所に彼女は立派に仕事をこなし、「いつもとは違う視点からバスケットを見られました。ボランティアは楽しかったです」と言って帰路に着いたそうです。いつもはファンとして試合を楽しんでいる彼女が、その日はボランティアとして社会体験し、成長してくれたのです。一緒に組んで仕事をしたボランティアさんも、程良く優しく、程良く厳しくご指導下さったのでしょうか。また、そういった保護者役をいつでも引き受けるとも言ってくださいました。

あの大きなアリーナは勿論「試合会場」として存在しているのですが、その片隅で「小さな輪」が存在するのです。「小さな輪」はボランティア同士に限ったことではなく、お客様とボランティアであったり、フェニックスの社員さんとボランティアであったり、色々なパターンがあると思いますが、それらの「小さな輪」が集合体となって、フェニックスを盛り上げていけたら素晴らしいことだと思います。チーム・お客様・スタッフ・ボランティアで大きなフェニックスファミリーとなって、共に育っていけるよう、力を合わせて楽しく頑張っていきたいです。まだまだ駆け出しの私たちですが、どうぞよろしく願いいたします。

【 bjリーグボランティアの活動内容 】

(注) 各チームHP参照にて作成

	設営	広報補助	演出補助	案内誘導	撤去	チケット販売	入場券	半券	配付	受付	清掃	救護	警備	車いす
仙台														
新潟														
埼玉														
東京														
富山														
浜松														
滋賀														
福岡														
大分														
琉球														

多くのチームで会場の設営・撤去の活動があり、当日については「会場の案内誘導」「入場口のチケットもぎり」「清掃業務」が活動の中心となっている。特色のあるものとして、今年から参加した「滋賀」「浜松」では「救護」や「警備」が加わっており、大分では「チケット販売」、仙台では「車いす客の誘導」がある。また、仙台のみ会場の設営・撤去はクラブが担当、ボランティアはタッチしていないのは、仙台で先行して活動しているサッカーやプロ野球のボランティア活動をベースにした、組織の誕生の経緯が背景となっていると思われる。

仙台 89ERS ボランティア活動報告

89ERS ボランティア 渡辺 英樹

男子プロバスケットボールbjリーグ仙台89ERSの公式戦ホームゲーム3月22日に初めて白石市のホワイトキューブで行われた試合を仲間4人で会場運営ボランティアとして参加してきました。通常は登録している人がサポートを行うがこの日は地元の人、白石キューブの職員・キューブのボランティアさん白石市商工会議所・白石市青年会議所・大学生白石バスケット協会及び、仙台大学・白石工業高校の学生さん達、40～50名程の人達を中心に運営サポートをしていました。

私たちは9時半集合で着いた時には皆さんは既に割り振られた持ち場についていました。地元の人たちは30分早い9時集合だったみたいです。総合案内、チケットのもぎり、スタンドの座席案内、エコステーションを担当し、私たちは総合案内で観客対応、車いす観戦者のサポートを任せられました。



会場で初めに目についたものは開場前のブースターの皆さんは雨風の当たらない所で待機していた事です。白石キューブはコンサートホールと体育館の躯体が一緒にホールとの間に待機スペースがあったことです、bjリーグはとても寒い時期の11月～4月にかけて行われます。ブースターの人達はいい席を取るべく、早い人で試合開始3時間前から並んでくれています。現状では仙台での会場ですと体育館の入り口が入口になる為、待機場が外になりとても寒い思いをさせているので、キューブの様な体系にもっていければ良いと思いました。

開場し、人が流れ作業が忙しくなる中、サポートする学生さん達が気になっていたのも遠目で拝見していましたが一人一人が真面目で自分なりに頑張っていたようでした。ボランティア事務局にたずねましたが、「1日目は学生さんだし、社会経験もないのでお客様の対応に慣れていない事が目に付きましたが、2日目では慣れたようで機敏に動いていましたよ。」と話していました。



作業終了後いつもの様に客席の清掃を行い作業を終え満足感を得ましたが、一つ心残りが地元スタッフの人達とは控え室も別だったので接する機会が少なかった事、なぜならボランティアをやっている理由の一つは普段会う機会がないような人とも交流できるからです。集合時間やミーティングも一緒であればもっと一体感がもてたかもしれません。そして、もう一つの理由は仙台の3つのプロスポーツチームではすでに定着しているエコ活動を実践していること。エコステーションでは燃やすぐみ、プラスチック、紙資源ごみ、割りばし、ペットボトルとキャップは別にと出来る限り分別しリサイクルに回しゴミの分別を呼びかけ意識を高めてもらう事、1試合1000～2000人ものお客様にスポーツを通じてこの呼びかけが出来ること、そしていつも感心するのは自分がボーンと作業をしていると周りの仕事がなくなっている事、スタッフのみなさんは本当に熱心で、すすんでほうきとちりとりを持って清掃する人、皆さんより早く来て配布物のチラシを折り込む人と、自然に目に着く、その空気がとても心地よくて勉強になるからとても大好きです。

白石ホワイトキューブでの試合は皆さんのサポートと地元の熱い応援を得て89ERSは連勝し貯金4としプレーオフ進出に前進しました。これがなによりの報酬です。

2005年にスタートしたバスケットボールのプロリーグ、それがbjリーグです。初年度は6チームでしたが現在は12チームまで増加、東西ふたつのカンファレンスに分かれてリーグ戦を行っています。その中で今回参加した「東京アパッチ」は最初からリーグに参加しており、ホームアリーナは有明コロシアムとなっています。名門チームのボランティア活動はどんなものなのか、異なるスポーツの活動をサッカーボランティアの目線から体験するため2月14日(土)に開催された「富山グラウジーズ」とのホームゲームに参加してきました。

<活動報告>

バスケットボールの場合週末に同じチームと2日間で2試合の連戦を行っています。そのためチームによって異なりますがたとえば土日の連戦の場合、金曜日か土曜日の午前中にコートや会場の設営を行い、日曜日のゲーム終了後に撤収するようです。サッカーのボランティア活動との大きな違いは、ゲーム運営のサポートにとどまらずこの設営や撤収も活動の大きな部分を占めていることがあげられます。

さて、バレンタインでもあった2月14日、当日は4月上旬並みの暖かさとなりませんが、私は9時前にコロシアムに入りました。その後ごく簡単にミーティングがあり軍手を受け取りさっそく約4時間、アリーナの黒シート貼り、ゴールの設置、コート貼り、看板や椅子、グッズなどをトラックから館内に搬入しました。このあたりは人海戦術という印象でかなりハードなものでした。とりわけゲームの場となるコート貼りがインパクトがありました。その後は昼食をとり休憩したあと、マッチデープログラムにチラシの挟み込み作業、売店の開店準備として写真の仕分けを担当、その後は商品を覚えたりし定刻16時開場、グッズ販売ではつり銭の間違いがないようにかなり気を使いました。途中で少し試合をみせてもらいましたが数時間前に設営したコートについてしまったのは、自ら設営に関わったことからくる愛着のようなものかもしれません。やがて19時50分にゲームが終了、売店を片付け夕食をとり活動が終わったのは20時半のことでした。

当日の活動は11名、普段の週末は20名前後ということでバスケットの好きな学生が多いということでした。特に決まったユニフォームというのではなく「TOKYO Apache HOME GAME HOST」と書かれたIDカードを貸与されての活動でした。(厚手のジャンパーの貸与もあるそうです)待遇面では他にお弁当飲み物が支給され、あわせて交通費として2,000円までの実費支給がありました。

<体験の感想>

bjリーグに対する知識もなく、1日だけの体験にも関わらずクラブ社員の皆さんやボランティアの皆さんがとても親切に教えてくれ、そこにかかわっているみなさんの「必死さ」を感じました。bjリーグ自体の認知がもっと高まることで、関係者の苦勞が報われるのではないのでしょうか。その意味ではサッカーのJリーグの認知はかなり高いものがありますが、それを当然とは思わず先駆者の苦勞があったことを私たちは忘れてはならないとも感じました。また、bjリーグはその立ち上げの段階からサッカーのホームタウン制度・地域密着をかなり意識しているといいますが、東京という土地柄のせいかなり地域とのつながりというものを感ずることはありませんでした。その意味ではぜひ今後他のbjクラブの活動も見てみたいものです。

ともあれ、長く同じクラブ・組織でボランティアとして活動しているとどうしてもマンネリ化を感じるがあります。最近ではサッカーの他にも、マラソンや野球の独立リーグなどさまざまなスポーツのボランティア募集・活動もあるので、ぜひ体験してみると新しい発見もあるのではないのでしょうか。あわせて、仙台ではJリーグのベガルタ仙台、プロ野球の楽天イーグルス、bjリーグの仙台89ERSのボランティアが自然に複数の種目の活動に参加するなどしているといえます。他の都市でも様々なスポーツのボランティア同士の交流は今後ぜひ活発になってほしいものです。

FROM 宮崎

みやざきプロバスケットボールチーム設立準備委員会

宮崎ではホームページを見る限りまだ署名活動以外に地域との連携の姿は見えませんが、ブログは頻りに書き込みがされており、地道な活動の軌跡がうかがえます。まずは、地域の連携をつくり設立準備委員会のトップページにその姿が現れてくること、何より地域の盛り上がりが作られていくことが期待されます。

設立準備委員会ホームページ <http://miyabas.jp/>

FROM 秋田

秋田さプロバスケットボールチームをつくる会

「秋田さプロバスケットボールチームをつくる会」の設立趣意書にはこうあります。「スポーツの支援基盤は、今までの企業の支援による実業団チームや学校による部活動の枠組みからホームタウンに根ざした地域住民との協力により成立するクラブチームへと移行しつつあります。(中略)常に県民みんなで応援できるような"何か"が必要だと考えます。」

オフィシャルサイト <http://akita-probasketball.com/main.html>

秋田プロバスケットボールクラブ株式会社 <http://akita-probasketball.com/company/index.html>

FROM 京都

京都ハンナリーズ

京都は昨年の9月に今年の新しいシーズンからの参入が決定しているため、めざすというよりもかなりプロのチームらしい動きがみられます。まずチーム名が決まっていますその名は「京都ハンナリーズ」、また、チームスタッフの募集もスタートしています。チームのブログもスタッフがほぼ毎日更新していて、まだ公式戦スタートまで半年をひかえ知名度のアップに取り組んでいる姿がみてとれます。

京都ハンナリーズブログ <http://sckh.blog55.fc2.com/>

公式HP <http://sckyoito.jp/index.html>

FROM 神奈川

b jリーグ神奈川設立準備委員会

ブログ形式の活動の報告を読むと、委員会のスタッフが各地のb jのクラブのホームゲームに参加しボランティア的に手伝ったり、大分のオールスターゲームにでかけて関係者と意見交換をしたり、県内の企業周りをしている様子が見てとれます。その成果でしょうかトップページの一番下にはb jリーグ所属の各チームのバナーが表示されていました。

b jリーグ神奈川設立準備委員会HP <http://bj-kanagawa.com/>

FROM 長野

長野スポーツプロダクション

b jリーグをめざす各地の動き、そんな中で既に運営する会社を立ち上げ、さらにボランティア募集も開始しているのが「長野」です。会社名は「長野スポーツプロダクション」、そのホームページにはスポンサーのバナーもあって体制作りは別格という印象があります。

長野スポーツプロダクションHP <http://www.pbb-nagano.com/>

ボランティアページ <http://www.pbb-nagano.com/staff.htm>

運営ボランティアブログ <http://staffnsp.naganoblog.jp/>

FROM 島根

(株)島根スポーツ振興会

島根ではスポンサー探しや行政との連携が始まっていることから山陰のみならずb jリーグとして空白域となっている中国地方という実情を考えれば、今後リーグ参戦も現実のものとして検討されていくのでしょうか。

(株)島根スポーツ振興会 http://blog.livedoor.jp/shimane_bb/



SV2004について

【誕生の経緯】

SVとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、1998年からスタートした「ブランメル仙台」(現在はJ2ベガルタ仙台)のボランティアや2001年の国体、2002年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で2004年に発足しました。

役割 (ミッション)

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います
そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします
思いをともにする人々とのネットワークを構築します
活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます
サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします
スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

活動 (アクション)

活動の記録・報告はSVホームページをご覧ください

スポーツ全般のコーディネート活動 … 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア組織立ち上げサポートなど
スポーツ及びボランティアのセミナー活動 … 接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数
スポーツに関する調査・企画・提案活動 … ボランティアアンケートの実施など
スポーツ情報発信活動 … SVニュース、ホームページからの情報発信など
スポーツネットワーク・交流活動 … 全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催
スポーツ環境改善活動 … チーム・マイナス6%との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたSV活動全般に参加するSV会員と
活動趣旨に賛同するサポート会員があります

【入会方法】

SV会員 … 年会費1,000円 (年度は4月～翌年3月となります)

サポート会員 … 年会費2,000円

お支払い方法…郵便振込み 郵便口座 18190-25930651 SV2004まで(振込み料はご負担願います)

または、SVが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。(イベントはホームページでご案内します)

申し込み先 郵送の場合 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター SV2004

レターケースNO.50 (必ずレターケースNOをご記入ください)

メールの場合 izumita@dm.mbn.or.jp FAX 022-274-1469

申し込み書はホームページよりダウンロードできます <http://www.miyagi-sports.net/sv2004>

本年度より会員種別
と年会費が変りました

多くのチームでボランティアを募集中です

サッカーJFL日本フットボールリーグボランティア < 各チーム及び施設の公式ホームページより >

【ガイナレ鳥取】ボランティアページ <http://www.gainare.net/site/page/gainare/volunteer/>

【横河武蔵野FC】ボランティアページ <http://www.yokogawa-musashino.com/>

【FC刈谷】ボランティアページ <http://www.fckariya.jp/info/volunteer.html>

【ソニー仙台FC】ボランティアは大学、専門学校だけに要請し、一般募集はしていません。

【ニューウェーブ北九州】ボランティアページ <http://newwave-k.co.jp/volunteer>

【佐川印刷SC】ホームページ上にはページをみつけられませんでした

【SAGAWA SIGA FC】ホームページ上にはページをみつけられませんでした。

【TDK SC】ホームページ上にはページをみつけられませんでした。

【MIOびわこ草津】ボランティアページ <http://fcmi-o.com/1141091142319/>

【ジェフリザーブズ】ボランティアページ

http://www.so-net.ne.jp/JEFUNITED/tools/cgi-bin/view_news.cgi?action=view&nid=4549

【FC琉球】ボランティアページ http://www.fcryukyu.com/m/?page_id=101

【アルテ高崎】ボランティアページ <http://artetakasaki.jp/>

【三菱自動車水島FC】ボランティアページ <http://www.red-adamant.com/volunteer/index.htm>

【FC町田ゼルビア】ボランティアページ <http://www.zelvia.jp/cgi-bin/info/info.cgi?month=200902&num=353>

【V・ファーレン長崎】ボランティアページ <http://www.zelvia.jp/cgi-bin/info/info.cgi?month=200902&num=353>

【ホンダロック】ボランティアページ <http://teruspo.blog48.fc2.com/blog-entry-16.html>

(注意) 内容は09年04月10日段階のもので、各チームの都合により変更される場合がありますのでご了承ください。

THANKS < 今月号のSVニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。 : 敬称略 >

岩橋 和彦 和田 邦彦 大林 晶子 鈴木 達也 渡辺 英樹
浅見 圭一

**スポーツボランティアの前向きな情報(募集・活動報告など)
を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場として
SVニュース活用願います。(提供先は下記に記載)**

編集後記

どうやら「ホームタウン制度」「地域密着」はプロスポーツには重要なキーワードであるようです。昨年から今年にかけて企業スポーツのクラブやチームが次々に「休部・廃部」となる一方で、リーグやbjリーグには新しいチームが加入し、益々全国各地の会場でゲーム観戦や、チームを支える活動をする人々の姿を見るようになっていきます。時間は必要かもしれませんが、各地の人々にとってチームは「自分たちのもの」であり「地域の宝・誇り」とも言うべきものなのでしょう。だからこそ自ら一歩を踏み出し、自分たちのできることをして「支える」活動が続いているのではないかと思います。

さて、今回は比較的新しいプロスポーツリーグであるバスケットボールの「bjリーグ」を特集しています。2005年のスタート当初に比較しチーム数は倍増、一見順調に見えるリーグですが、リーグに比較して経営規模が小さく、室内のスポーツということもあって観客数も少ないことから経営的には万全とはいえません。一方で今回特集したように大半のチームにボランティア制度があり、リーグがスタートして4シーズン目ということで着実に変化も見え始めています。経営規模が小さいことはチームとボランティア、ボランティア同士の距離を縮め、地域との距離を縮めることにもつながります。その身近な関係の良い点を最大限にいかせれば、ボランティアにとっても貴重な経験の場となるのではないのでしょうか。

2010年1月、bjリーグの「オールスターゲーム」が宮城で開催されます。その受け入れに向けてリーグやチームと連携しボランティアとして出来ることを考えていきたいと思えます。ぜひ、多くの方・仲間に来ていただければ幸いです。

このSVニュースはSV2004の公式ホームページでもご覧になれます。 <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/index.php>
スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。 情報提供先 izumita@dm.mbn.or.jp